

「飛翔な日々」

25生 赤坂 由梨子

あつという間に一セメが終了してしまいました……。オリキャンやゆかた祭りなど大きな行事から、何でもない日まで、毎日が新しいことだらけでとっても充実した四ヶ月でした。こんな調子で来セメからも充実した大学生活を送りたいと思ってます！

「カルチャーショック」

25生 上江洲 まどか

コンビニでおにぎり温めないんだー

十月には寒くなるって聞いて衝撃を受ける

ヤマザキ春のパン祭りって本当にやってるんだー

「朝はZIP派？めざまし派？」

「ZIPって何？」

電車の乗り換えとかわからん

入学式の時は半袖の制服だったよ？

実は自転車乗れない人多い……と思う

24時間テレビを24時間やらない

移住して早四ヶ月、もともと沖縄訛りがなかったのに
広島の方が感染ってきた今日このごろ

「島根での旅」

25生 大塚 侑奈

私が飛翔の編集委員になったわけは、文章力を付けたいなーという理由でした。特に、編集に興味があったわけでもなかったし、広報誌を作ったこともありませんでした。話を聞くと、そんなに忙しくないし、友達も増えるかなーという程度にしか思っていませんでした。そんな私が、なぜか、島根まで取材に行くことになりました。ここでは、島根の魅力について少し話したいと思います。

島根について一番初めに思ったことは、すごくきれいな街だということでした。ごちゃごちゃしたビルもないし、川沿いがきれいに整備されていて、散歩したら気持ちいいだろうなと思いました。ちなみに広島から松江までは三時間ぐらいで着きます。これは、松江自動車道が新しく開通したからです。ずっと高速道路を走るので快

適でした。朝早かったので、バスの中では寝てしまいました。

取材を終えて、私たちは、松江城の周りを巡る堀川遊覧船に乗りました。この遊覧船は約五十分で松江城の周りの堀川を一周するというものでした。この日はとても暑かったのですが、川の上だからか、とても涼しくて、快適でした。また、風も気持ちよく、一周する間ずっと心地よく過ごせました。そして、遊覧船から見る景色はとても美しく、時間を忘れるほどでした。松江城は言うまでもなく、場所によって、松江市はさまざまな顔を見せてくれました。私が一番気に入った場所は、武家屋敷です。立派な建物を川から見るととても情緒があつていいなと思いました。そして、船頭さんの説明もおすすりめです。私たちの船の船頭さんは、途中でいろんな歌を歌ってくださりとても面白かったです。おすすりめのスポットを教えてくださいませんか。本当に楽しかったです。松江市に行つたときにはぜひ乗ることをお勧めします。

短かったです。少しでも島根の、というか松江市の魅力が伝わっていただければいいなと思います。私もあまり長く滞在できなかつたので残念でしたが、また行きたいと強く思いました。帰りのバスは二階建てでした！

「本日も、のほほん日和」

25生 小林 美月

「素敵な朝よ、起きて！」

今朝も、スマートフォンから聞こえるティンカーベルのけたたましい叫びで目が覚める。

ありがたいことに私の頭はかなり単純にできているらしい。犬がよくするようにぶるぶると頭を二、三回振るだけで頭が冴える。顔を洗ってテレビをつけたらベランダに出て思いっきり体を伸ばす。これが私の一日のスタート。ふう、今日も昨日と同じ様な一日が始まる。

「大学に入ると自由時間がたくさん増えるから、自分のやりたいことがたくさんできるよ。」

多くの人にそう言われて心躍らせながら入学してきたものの、私の毎日は結構決まりきっている。私の要領が悪いせいなのか、大学一年生なんてこんなものなのか。

こんな私の日常に、ささやかな「非日常」を与えてくれるもの、それが“散歩”。下見住みの私のお気に入りのお散歩コースは、広大キヤンパス一周コース。休日の昼すぎの構内は人が少なく、のんびり歩くのには最適だ。

散歩をしていると小さな発見がたくさんある。

「ガマキリってこんなに胡散臭い顔をしていたのか……」とか、自分の体の何倍もあるミミズに群がる蟻をみて弱肉強食の自然界の掟を改めて感じたりだとか。そうかと思ったら道端でいちやつく二匹のトカゲを目にして「こんなところにもリア充がいたのか……」ってちよつと切なくなったり、なんてことも……(笑)。

毎回毎回小さな小さな一期一会がある。そんな小さな出会いが決まりきった日常にほっこりするアクセントを与えてくれる。散歩は、何でもない一日に「特別」をくれるティンカーベルの魔法の粉みたいなもの。

広島に来て早四か月。この土地をもっともつと踏みしめて、大切な場所にしていきたい、と思いながら、今日ものんびり歩くのである。

「飛翔な日々」

25生 島田 優太朗

みなさんテストお疲れ様でした。
どうでしたか??

僕は大学生活最初のテストを難なく終えたつもりでしたが、先日友達と答えあわせをしたところ、あまりにもみんなと答えが違いすぎ

て、すこしドキドキ冷や汗をかいている毎日です。

さて、これから待ちに待った夏休みですね。免許のため車校に行きまくる人も、バイトや部活潰けだという人も、この夏休みをどうか楽しんでください！

僕はと言うと、この夏は部活潰けの夏休みになりそうなので、某新聞社のインターンシップに参加することになりました。

部活を通して学ぶことも多々あるのですが、やはり大学生ですので自分から飛び出してチャンスを掴み、経験を積んでいくことも大事なのではないのでしょうか??

何でもいいので、夏休み前に比べて、「少し成長したな」と思えるような有意義な夏休みになることを願っています。

「夏休みの予定」

25生 古江 悠哲

大学生になって初めての夏休み。何をしようかと迷っていた。そこで思い切ってインターンシップに参加してみることにした。それまただのインターンシップではなく議員インターンシップである。

議員インターンシップは企業にインターンするのではなく議員の事務所インターンシップする。そこで社会人としての行動や政治に参加する姿勢を身に付けるのである。

私は行事というものが苦手を実を言うとオリエンテーションやキャンプや班活、ゆかた祭りの全てに参加していない。そのためインターンシップという大きな活動に際して並大抵でない不安を感じているが、ぜひともインターンシップをやり遂げて一回り大きな人間になってやろうとも思っている。私と同じような人がいればぜひともこの夏休みに何か大きな成長をできることを願ってやまない。

「思い出」

25生 星原 有里

先日宮島で、スマホをなくした星原です。きつと海に流されて、香川県辺りに漂流されているかもしれません。鹿のオモチャになっているかもしれません。しかし、いいんです。輝かしい思い出たちというのは、写真やデータがなくなると胸の中に焼き付いているから。今を一瞬一瞬大切に噛み締めていきたくて生きていきたいものです。

ただ、スマホはなくしても、この飛翔はなくなさないよう大切にたっておこうと思います。

「車校地獄」

25生 村長 俊亮

今日も昼の二時から四時まで車を運転し、五時から八時まで車のルールを学ぶ。そう、昼から夕方までずっと自動車学校にいなければならない。明日も明後日も同様だ。忙しすぎて倒れそうだ。

なぜこうなってしまったのか、それは入校してから今まで、ほとんど自動車学校に行かなかったからだと思われる。正確にいうと行かなかったのではなく、行けなかったのだ。実は、学科の日程と自分の授業の日程がかぶってしまっていて、全く学科を受けることが出来ず、夏休みとなった今、初めて学科を受けることが出来るようになったのだ。実際に車を運転する「技能」の方は都合の良い日を選ぶことが出来たが、学科はそうはいかなかった。もちろん車校のために授業を休むわけにもいかない。こうして、たまりにたまった学科は、夏休みになった今、肩に重くのしかかることになってしまった。これは運が悪いとしか言いようがない。

車校を受けるにあたって後悔したことがある。それはマニュアル車の免許を取ろうと決めたことだ。マニュアル車はオートマ車と違い、ギアを自分で変えなくてはならない。これがとても面倒で難しい事であることに最近気がついた。そして思った。マニュアル車なんて将来運転するのとかと。確かにバスや軽トラはマニュアル車だが、運転する気は今のところない。なんでマニュアル車を運転しなくてはならないんだ???なぜ……なんて事を思いながら、今日も自動車学校に出かける。楽しい、楽しい、自動車学校へ。

やっと夏が来た。テストやレポートに追い込まれながらも、人間、なんとかかなると思った初夏。大学はいつて、みんなと交流して、バカ騒ぎして、よく食べて、いっぱい泣いていっぱい笑って、ちょっとずつだけ成長しているように感じる(この原稿自体あと二十五分で書き上げなければならぬという危機に追い込まれているなう)。

それはともかく、総合科学部はいざないに始まり、いざないに終わったと思う。

なんだかんだ良い思い出いっぱい。

明後日は宮キャン。みんな、水着を着るんだろうか。今日はとりあえずビーチサンダルを買いに市内に行ってきた。水着を探してみると、どれもビキニばかり。しかも高い。いろんな意味で庶民に味方な水着は売ってないのだろうか(ちなみに昼にデパートで食べたエビとアボカドのワッフルがすごくおいしかった)。

明日は気合を入れて美容院でイメチェンを試みる。どんな感じになるのか楽しみだし、一方で髪が痛んでるから正直不安。まあ、失敗したら切っちゃえ。みたいな。



昨日はなんとか最後のレポートを居眠りしながら終わらし、テンションあがってきたから家の近くの海に行ってきた。

海にはワカメがいっぱい落ちていた。どれもこれもおいしそう。味噌汁に入れたいと思った。だって、ワカメ食べ放題だったもん。

……まずかった。

完。

「俳句甲子園」

25生 米田 千紘

「おとな二十歳を目前にして」

24生 上野 裕介

この記事を書いている今、世間は甲子園で盛り上がっています。ですが、私にとつての夏の甲子園といえば「俳句甲子園」です。皆さん知っているでしょうか？

俳句甲子園は、毎年八月に愛媛で開催される大会です。全国各地の俳句に青春をかける高校生たちが五人一チームを作り、お互いの俳句について鑑賞する力を競います。などと説明してしまうと、かなり文系チックで風流な大会に感じますが、実際はとてもアグレッシブな戦いが繰り広げられています。俳句の鑑賞・質問を簡潔に、時間内に収めてくる上に、歌うなどのパフォーマンスまで入れてくる高校生たち。私は高校二年生の時にこの俳句甲子園に参加しましたが、その勢いに圧倒されました。

このように私が説明してもこの凄さは伝わらないと思うので、ちよちよいと検索してぜひ動画を見てみてください。俳句って聞くと難しそうに感じるかもしれませんが、案外見てみると自由で面白いものなんです。そして興味が湧いた方は、広島大学俳句サークル「H20」に来てみると更におもしろ…、え？ ええ、そうですよ。宣伝でした！

でも本当に俳句は楽しいので、皆さんぜひどこかで触れてみてくださいね。

大人と子供の境界は場面や人によって様々な捉え方や意見があると思います。例えば、電車の料金であれば中学生から大人ですが、その一方、自分でお金を稼いで生活していくことができ初めて大人だという人もいると思います。しかし、選挙権が与えられたり、年金の保険料を払わなくてはいけなくなったりする“二十歳”というのは、やはり多くの人が考える大人と子供の境目の一つではないでしょうか？

“二十歳”

それは、自分には関係のない、まだまだ遙か先のことだと思っていました。

しかし、いつの間にか時は過ぎ、次の十月六日に私は二十歳になってしまいます。そこで今回は、二十歳を目前にして、感じたことをつらつらと書いてみようかと思っています。

私は、アニメやドラマを見たり、音楽を聴いたりしている時、年を重ねて来たんだなとしみじみ感じることはありません。アニメの主人公や音楽の歌詞を見た時、かつては自分よりも上の年代だったのにも関わらず、いつの間にかそれを追い越して、自分の方が年上に

なってしまうことがよくあります。そして、それに気づくと、なんとも言えない寂しさがこみ上げてきます。放っておいても、生きていく限り年は取り続けていきますが、どんなに何を頑張っても、現代の科学技術では本当の意味で若返ることはできません。たとえ、もう一度小学生に戻りたいなどと思っても、それは不可能です。時間の流れは常に一定方向であり、一秒たりとも待つてはくれません。私は昔から行動が遅いため、無駄にしてきた時間も数多くあると思うし、あの時ああしておけばと後悔することだっただけでたくさんあります。しかし、それでも、時間はただひたすらに流れ続けていきます。そして、だからこそ、今を精一杯生きることが大切なんだと思います。

私が好きな言葉に「明日やろうは馬鹿野郎」というものがあります。これは某ドラマで使われていた言葉で、いつも通り明日が来るとは限らないから、今出来ることは今しておけ、というような意味を持っています。毎日、当たり前のように次の日がやってくると思っています。実際は本当に来るかは分かりません。当たり前のように次の日がやってくることは、実は奇跡的なことなのだと思います。皆さんも、またいつか・・・なんて思ったときには、ぜひこの言葉を思い出してみたいかがでしょうか？

さて、話は変わりますが、皆さんの中には、早く大人になりたいという人もいれば、ずっと子供のままでいたいという人もいます。ちなみに、私は後者です。まず、大人になって得られるも

ので最も大きいものは“自由”だと私は思います。しかし、その反面“責任”というものがのしかかってきます。大人になれば、自分の行動すべてに対し、自分で責任を取らなければいけません。もちろん、それが成長していく上での宿命ではあるのですが、やはり出来ることなら、何かに守られて生きていきたいというのが本望です。また、大人になるにしたがって、子供時代に感じていたような“ワクワク”が失われていっていると思います。例えば、ゲームを買ってもらって家に帰るまでのなんとも言えないあのワクワク感など。もう一度、あのようなワクワクを味わってみたいものですね。

さて、最後になりましたが、大学四年間なんて本当にあつという間だと思えます。これは自分に向けても言いたいことなのですが、そんな短い時間だからこそ、意識して何かをしなければ何もできないと思います。みんな、それぞれいろいろな思いを持って大学に入っていると思います。そして、本当に今しかできないことがたくさんあります。だからこそ、少しでもいいので時間を作って、何かに挑戦してみたいかがでしょうか？

「仏像のはなし」

24 生 岡添りえ

総合科学部では様々な授業が受けられますね。授業を通して思いがけず自分の興味が広がることも多いです。

三セメで私は日本の美意識について学ぼうと思いい、日本の美術に関する授業を選択しました。しかし、実際に授業に出てきたのは仏像ばかりだったのです！仏像の種類や階級についての講義、120メートルもある巨大仏の紹介、各時代の仏像の特徴などなど、仏像に関するディープな話を聞くことができました。

元々仏像にはあまり興味がなかったのですが、まさかこんなに仏像に偏った授業だったとは思っていませんでした。しかし授業を受けるうちに日本でいかに仏像が愛され彫られてきたかという事に興味が湧いてきました。

こうした思いがけない発見や隠れた興味が見つけれられるのもいいものですね。四セメも積極的にいろんなことに興味を持って授業を取りたいと思いました。

「フランスな日々―海外はトラブルがいっぱい―」

24 生 藤本 迪子

私は春休み一ヶ月間フランスに行きました。

大学で始めたフランス語は楽しくて話せるようになっていきたい！という一心でした。

しかし海外に一ヶ月も一人で居ればやはりトラブルは起きます。世界遺産モンサンミシエルに着いた日は天候が最悪で大雨、みぞれ、そして大雪へとみるみる変化……。私は運悪く歴史的大雪の日遭遇してしまいました。

翌日も相変わらずの雪模様。

パリに戻るためにバスで駅に行きましたがなんと電車、バス、タクシー全ての交通機関がストップするという最悪の事態になりました。

しかも駅に残されたのは全て日本人（実はモンサンミシエルは日本人に人気の観光地でかなりの数の人が訪れているのです）。

さらにフランス語が分かるのが私だけという事が判明しました……！！

そこからはたくさんの人に声をかけて情報をもらい最終的にはヒッチハイクをして電車が通っている駅までたどり着くことができました。

自分がまさかこのような体験をすと思いませんでしたがやはりこの経験から自信とトラブル耐性がつきました。

その証拠に帰国の際にパリから空港に向かうバスが
エンジンストップして一時間遅れても何も感じませんでした(笑)。

トラブルも海外旅行の醍醐味だと私は思います。

そんな私はこの夏一ヶ月アメリカに行ってきます！

「三セメの終わりに思ったこと」

24生 原田 みずほ

今回も毎度のように飛翔な日々のほうを選んだわけですが……。前回の分を書いたときは、次は何を組み合わせようかなどと考えていましたが、ネタが浮かばないのでやめておきます。

さて、24は四月からプログラムに分かれたので、プログラムごとに授業やレポートの内容が異なるんですね。当然ですが。今回の期末は、学部の専門の授業はテストよりもレポートが多かったようです。感想を書いたり、絵を描いたり、展開研究第二弾みたいなのがあったり。その一つで、書いているうちに、なぜか「青春とは何ぞや」というような話題になったのですが、何なんでしょうね。そもそも青春っていつ？「青春する」ってどういうこと？というように自分でも疑問です。年を取ってから振り返って、答えが見つかるばいいと思いますが、皆さんはいかがですか……？